

令和8年（2026年）度施策評価シート

令和 8 年 7 月 13 日

評価者	こどもみらい部長 柴田 直慧
-----	----------------

○ 施策の概要

総合計画上の位置付け	分野	4-(2) 子育て	施策の方針	4-(2)-②子育て環境の整備
目標とするまちの姿	子育て関連等施設の充実により、すべての子どもたちが健やかに成長できる環境が整っています。 また、地域の方々との連携により、子どもたちが鎌倉ならではの多様な体験・活動を行える環境が整っています。			
主な取組	(1) 保育環境の充実 認可保育所や認定こども園等の環境を整備するとともに、幼稚園預かり保育の充実など、待機児童対策を推進します。 (2) 放課後環境の整備 児童の安全・安心な放課後等の居場所を確保するため、すべての小学校区で放課後かまくらっ子が実施できる環境を整備します。 (3) 親子の居場所の充実 親子で気軽に集い、打ち解けた雰囲気の中でくつろぐことができ、子育ての悩み相談もできる環境を整備します。			

1. 前年度(評価対象年度)の当該施策の目標

- ・岡本二丁目用地活用基本計画を更新し、事業者ヒアリング等を実施の上、ニーズを把握する。
- ・未就学児童数と保育ニーズを見極めながら、待機児童の解消を図るための施策の検討を進める。
- ・新規の施設整備を検討し、待機児童の解消に向けた取組を進める。

2. 投入コスト

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	124,163	121,691	682,585	509,203	88,386	70,593
人件費	35,603	41,729	32,663	34,182	50,337	19,051
総事業費	159,766	163,420	715,248	543,385	138,723	89,644

3. 施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果

重点事業	整理番号	事業名	法定受託事務	事業費(千円)	人件費(千円)	総事業費(千円)	事業評価	貢献度	最終評価
重	こども-09	子育て支援施設等整備事業		0	8,283	8,283	現状維持	B	現状維持
重	こども-21	私立保育所等整備事業		70,593	10,768	81,361	現状維持	A	拡充

4. 評価対象年度の実施内容

- ・岡本二丁目用地活用基本計画(更新版)について、パブリックコメントを実施し、計画の策定を行った。
- ・既存認可保育所1施設の増築工事を進めた。
- ・小規模保育施設1施設の新設を行った。
- ・他事業ではあるが、保育士確保を目的とした奨励金等を支給した。

※実施できなかった事業とその理由

5. 成果指標

成果指標①		待機児童数(翌年度4月1日時点の数値)						出典	所管課調べ	
初期値	平成31年 4月1日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	59	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	人	翌年度4月1日 入所状況を当 該年度の成果 指標とする。
		実績値	45.0	15.0	28.0	34.0	9.0	1.0		
		達成率	-45.0	-15	-28	-34	-9	-1.0	人	

成果指標②		保育園の受入数(翌年度4月1日時点の定員数)						出典	所管課調べ	
初期値	平成31年 4月1日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	2858	目標値	2,880	2,900	2,910	2,910	2,910	2,910	人	翌年度4月1日 入所状況を当 該年度の成果 指標とする。
		実績値	2,878	2,878	2,900	2,930	3,036	3,097		
		達成率	99.9%	99.2%	99.7%	100.7%	104.3%	106.4%	%	

6. 「施策の方針の成果指標」の達成状況等を踏まえた施策の達成状況の分析

小規模保育施設1施設の新設、保育士確保を目的とした奨励金等を支給することにより、子どもの受け入れ可能人数が増加し、待機児童の削減につながった。

7. 主な実施内容と施策の達成状況の分析を踏まえた評価

※主な実施内容と目標とするまちの姿の関係(達成状況とその理由)

「施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果」における貢献度の分析

施設整備を進めることで待機児童数は削減したが、ゼロとはならなかった。引き続き受入可能数の増加に努めていく必要がある。

8. 今後の方向性

鎌倉ミライ共創プラン2030 該当施策	2-2 こども・若者
・岡本二丁目の用地活用については、土地利用の課題が解決したのちに、財源の状況を見極めつつ実現のための手法を含めた検討を進めていく。 ・待機児童の解消及び保留児童の削減に向け、保育需要動向を注視しながら、施設整備や定員構成の見直しを行い、併せて保育士確保を進めていく。また、市内の老朽化が進む施設において改築を行い、安心して預けることができる環境を整備する。	